

# 上には上が...

お隣の群馬県では

文化庁が全国の都道府県から提出された埋蔵文化財数の統計を処理し、公開している「周知の埋蔵文化財包蔵地数」というデータがあります。平成24年度のデータでは、群馬県の古墳の数は4,101基で全国11位でした。群馬県はこのデータに疑問を持ち、平成24年度から5か年で県と県内の市町村が連携して、県内に所在する古墳の数を再調査しました。その結果、群馬県には13,249基にのぼる数の古墳が築造され、2,434基が現存していると今年5月に発表しました。なんと再調査したところ約3倍の数になったわけです。数の多かつた上位の市は、高崎市2,741基（現存639基）、太田市1,605基（現存178基）、前橋市1,542基（現存139基）、藤岡市1,511基（現存144基）とのこと

## 古墳の規模は

5世紀前半〜中頃に掛けて築造された太田市の天神山古墳（墳丘長210m、後円部直径120m、高さ16.5m、墳丘の周りの周濠を含んだ古墳の全長364m、後円部側幅288m）は、大阪府羽曳野市に所在する誉田御廟山古墳（伝応神天皇陵）の1/2相似形として知られています。天神山古墳は東日本最大の規模を持つ古墳ですが、畿内の大王墓の半分の大きさしかありません。それでも近畿地方以外の古墳の規模としては3位、近畿地方の古墳を含むと全国で28位となります。

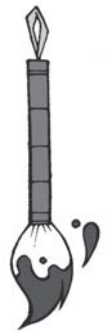
なみに関東地方第2位の古墳は、5世紀後半に現在の茨城県石岡市に築造された舟塚山古墳（墳丘長186m、後円部直径90m、高さ11m、墳丘の周りの周濠を含んだ古墳の全長260m）、関東地方第3位は、現在の高崎市に4世紀末〜5世紀初頭に築造された浅間山古墳（墳丘長171.5m、後円部直径105m）となります。

## 全国最大の古墳は

5世紀前半〜中頃に築造された大仙古墳（伝仁徳天皇陵）となります。墳丘の最大長は486m、後円部の直径249m、高さ35.8m、墳丘の周りの周濠を含んだ古墳の全長840m）となり、鍵の穴のような形をした墳丘の平面積は103,410平方メートルとなり、エジプトのクフ王のピラミッドと中国の秦始皇帝陵とあわせて『世界三大墳墓』と言われています。

## 栃木県で最大級の古墳は

5世紀中頃、下毛野国で最初に築造された大型前方後円墳である笹塚古墳（宇都宮市）、5世紀末〜6世紀初頭に造られた摩利支天塚古墳、琵琶塚古墳（小山市）、6世紀後半に築造された吾妻古墳（壬生町・栃木市）です。当地では約100年間に4基の地方首長の墓が造られました。どれも下毛野国（栃木県）最大規模を誇る前方後円墳として規模を比べていますが、この規模の古墳は先に述べた大阪府市に所在する大仙古墳の周囲に10基以上点在する陪塚と呼ばれる近親者や従者を葬った



下野市教育委員会 文化財課

とされる墓の規模と同じとなります。大仙古墳の北側にある永山古墳は墳丘長104mで、周囲に周濠があり琵琶塚古墳などとほぼ同じ規模となります。栃木県で一番であったとしても中央では、家来か従者のような立場の古墳の大きさでしかありません。上には上があるようです。

平成24年における全国で最も古墳の数が多いい県は、兵庫県で18,841基、次いで鳥取県13,459基、京都府13,089基、岡山県10,776基となり、全国の総数は158,905基（文化庁・平成24年度データ）となります。栃木県は976基で報告されており、全国27位となっています。この数は、県内の自治体には文化財担当者がいないところもあり、埋蔵文化財包蔵地に関する地図が整理されていないため、取りこぼしがあると考えられています。昭和16年の皇紀2600年を記念して行われた調査成果などを参考にすると、県内には恐らく7,000基近い数の古墳があったと考えられます。現在、下野市内には200基以上の古墳が存在したことを把握していますが、一部雑木林や宅地などで立ち入りが行われていない箇所がまだあることから想定すると300基近い数の古墳があったと考えられます。栃木県においても、群馬県のように継続的な調査が今後必要となってくるでしょう。